

## 事業の背景・目的

オガサワラハンミョウは、小笠原諸島の兄島を唯一の生息地としており、生息個体数は非常に少ないと推定されている。近年は、兄島において特定外来生物のグリーンアノールが進入し、オガサワラハンミョウの生息に影響を及ぼしていることから、絶滅のおそれのある種の保存に関する法律に基づくオガサワラハンミョウ保護増殖事業の一環として、伊丹市昆虫館では、平成23年度より継続してオガサワラハンミョウ生息域外保全事業を行っている。

## 事業の内容

オガサワラハンミョウの生息域外個体群を継続して維持することにより、本種の保存を図るとともに、野生復帰に必要な飼育繁殖技術の確立及び生態等の科学的知見の集積をために、室内気温が年間22～24℃で安定している伊丹市昆虫館第2蝶飼育室内でオガサワラハンミョウ幼虫の飼育と蛹の管理を行った。また、第2蝶飼育室に設置したインキュベーター内で成虫の飼育と繁殖を行った。



幼虫飼育作業



幼虫・蛹  
管理作業



成虫飼育  
繁殖作業

## 得られた成果

- ・オガサワラハンミョウの累代飼育は順調であり、種の保存に貢献できている（令和元年10月3日～令和2年3月31日までの羽化個体数は雌雄合わせて21個体）。
- ・飼育技術の改良と効率化をすすめるとともに、様々な飼育データの蓄積を行っている。
- ・橿原市昆虫館で飼育した個体の受け入れを行い、飼育を継続中である。
- ・今後は、オガサワラハンミョウの生息域外個体群を継続して維持することにより種の保存を図るとともに、野生復帰に必要な飼育繁殖技術の確立及び生態等の科学的知見の集積を行う。また、飼育中のオガサワラハンミョウの成虫及び幼虫の生態展示を、年間約15万人の来館者を対象に行い、生物多様性保全にかかる教育普及に努める。